



# 目次

■まえがき	1	第4節 横須賀製鉄所	43
■編集方針・凡例	2	*資料	
		1 - 13 横須賀製鉄所建設の事情	45
		1 - 14 横須賀製鉄所雇外人明細表	50
		1 - 15 横須賀製鉄所建設記録	52
		1 - 16 煉瓦焼成記録	60
		1 - 17 ガラス戸に関する仕様書	61
序章 総説	11	第5節 小菅ドック捲上げ機小屋	62
		*資料	
§1 建築における西欧化と近代化	11	1 - 18 小菅ドック捲上げ機小屋の建築に ついて	62
§2 日本近代建築史の概観	13	1 - 19 小菅ドック建設の経緯	67
第1章 幕府および雄藩の西洋建築技 術導入	19	第2章 明治政府の殖産興業に伴う建 設	69
第1節 五稜郭・松前陣屋および品川台 場	21	第1節 営繕官制の変遷	69
*資料		*資料	
1 - 1 五稜郭築造予算	22	2 - 1 幕府工匠の明治政府への移行	71
1 - 2 松前（清川）陣屋について	22	2 - 2 明治前期に於ける営繕事務官制の 変遷	72
1 - 3 品川台場	24	2 - 3 臨時建築局職員	77
1 - 4 品川台場の復元的考察	26	2 - 4 最初の議院建築の設計者エンデと 其貢献	78
第2節 長崎製鉄所	27	2 - 5 皇居御造営事務局	83
*資料		2 - 6 東宮御所御造営	84
1 - 5 カッティンディッケの見た長崎製 鉄所の建造	29	第2節 工部省営繕課の主な事業	86
1 - 6 工場建築普請の検分報告書	30	*資料	
1 - 7 長崎製鉄所年譜	30	2 - 7 工部省営繕課官員表および傭外人 各務担当表	87
1 - 8 長崎造船局創業経過	37	2 - 8 林忠恕略歴	89
1 - 9 長崎造船所御払下願	37	2 - 9 工部省営繕課	92
1 - 10 工部省長崎造船所傭外国人一覧	38		
第3節 尚古集成館の建築・付鹿兒島紡 績所	39		
*資料			
1 - 11 尚古集成館	41		
1 - 12 鹿兒島紡績所の建設	42		

第3節 造幣寮の建設——大阪造幣寮工場…………… 98

\*資料

- 2 - 10 造幣局の沿革と建築遺構…………… 99
- 2 - 11 造幣寮諸御普請箇所月日概略…………… 106

第4節 富岡製糸所…………… 108

\*資料

- 2 - 12 富岡製糸所記…………… 110
- 2 - 13 諸布達類…………… 115
- 2 - 14 建設用木材の調達…………… 116
- 2 - 15 建設用瓦類の調達…………… 119
- 2 - 16 建設用煉瓦の調達…………… 119
- 2 - 17 建設用石材類の調達…………… 120
- 2 - 18 建設用石灰類(煉瓦目地)の調達…………… 121
- 2 - 19 大工手間附…………… 122

第5節 品川硝子製造所の建築…………… 123

\*資料

- 2 - 20 工部省品川硝子製造所の建築について…………… 123
- 2 - 21 品川硝子製造所関係文書…………… 128
- 2 - 22 品川硝子製造所…………… 133

第6節 開拓使の営繕事業…………… 135

\*資料

- 2 - 23 開拓使工業局事業…………… 137
- 2 - 24 豊平館の建築…………… 141
- 2 - 25 開拓使札幌本庁器械場…………… 149

第7節 鉄道建築…………… 150

\*資料

- 2 - 26 新橋・横浜間鉄道諸建築箇所分費用綱目…………… 152
- 2 - 27 鉄道日誌…………… 155
- 2 - 28 鉄道工事設計参考図面…………… 163

第3章 居留地設置とそれに伴う建築資料…………… 165

第1節 長崎居留地…………… 167

\*資料

- 3 - 1 開国と長崎…………… 167
- 3 - 2 長崎居留地の成立と拡大…………… 169

- 3 - 3 英コンシユル館取建仕様帳…………… 175

- 3 - 4 工事代金不払一件…………… 176

- 3 - 5 請負入札者届書…………… 177

- 3 - 6 建家異国人へ譲渡届書…………… 178

第2節 横浜居留地…………… 178

\*資料

- 3 - 7 居留地の外国人建築技術者…………… 180

- 3 - 8 横浜商人録…………… 183

- 3 - 9 築地ホテル館…………… 184

第3節 神戸居留地とその洋館…………… 189

\*資料

- 3 - 10 神戸に於ける居留地建築と山手の木造洋館…………… 189

- 3 - 11 神戸居留地の成立過程と現存する一洋館について…………… 195

第4章 明治初期の大工棟梁関係文書 …… 199

第1節 立石家文書…………… 202

\*資料

- 4 - 1 開智学校新築仕様帳…………… 204

- 4 - 2 開智学校工事定約書…………… 213

- 4 - 3 開智学校用板ガラスの購入…………… 213

- 4 - 4 開智学校新築費用総額帳…………… 214

- 4 - 5 長野県会議事堂工事関係文書…………… 225

- 4 - 6 東筑摩中学校建築諸入費控簿…………… 227

- 4 - 7 木材等の小訳書の調整依頼書…………… 228

第2節 市川代治郎…………… 229

\*資料

- 4 - 8 戸田橋架橋願等…………… 230

- 4 - 9 中込学校見積書…………… 230

第3節 津田吉之助…………… 231

\*資料

- 4 - 10 富岡製糸所を写す…………… 231

- 4 - 11 津田吉之助のこと…………… 232

- 4 - 12 尾山神社神門造営関係文書…………… 233

第4節 睦沢学校…………… 236

\*資料

- 4 - 13 睦沢学校建設経緯…………… 236

第5節 清水喜助 .....	239	6 - 6 煉瓦造家屋の見積り .....	289
*資料			
4 - 14 加賀商会請負願と身分書 .....	239	第2節 初期の煉瓦生産事情 .....	290
4 - 15 築地ホテル創設往復書翰 .....	240	*資料	
4 - 16 横須賀造船所納入品御用の継承文 書 .....	241	6 - 7 煉瓦生産沿革 .....	290
第5章 木造建築技術の近代化 .....	243	6 - 8 煉化石の製造者 .....	293
第1節 外国人の見た日本建築 .....	248	6 - 9 開拓使の煉瓦生産 .....	294
*資料		6 - 10 煉瓦製造人・寸法・価格表 .....	294
5 - 1 静岡学校の思い出 .....	248	6 - 11 明治前期の煉瓦造建築 .....	295
5 - 2 ブラントンの「日本建築論」 .....	250	第3節 煉瓦生産の展開とその規格化 .....	296
5 - 3 レスカスの「建築論」 .....	252	*資料	
第2節 木造と煉瓦造の耐震比較 .....	253	6 - 12 日本煉瓦製造株式会社概覧 .....	299
*資料		6 - 13 煉化石及モルタル試験報告 .....	301
5 - 4 皇居木造論 .....	253	6 - 14 煉瓦の形状に就て .....	304
5 - 5 ミルンの「地震学」 .....	254	6 - 15 明治初期の国産煉瓦の形状・寸法 と積み方の変化 .....	305
5 - 6 各種建物ニ関シ近來ノ地震ノ結果 .....	256	6 - 16 煉瓦の積み方と形状の諸説 .....	310
第3節 木造耐震手法の改良案 .....	259	第4節 煉瓦造建築の確立 .....	312
*資料		*資料	
5 - 7 安全建築鉄具ノ發明ニ就キ .....	260	6 - 17 渋沢邸新築仕様書 .....	313
5 - 8 耐震構造 .....	262	6 - 18 陸屋根及大棟登り棟共銅板葺仕様 注文書等 .....	315
5 - 9 木造耐震家屋構造要領 .....	262	6 - 19 第二号建築木屋組仕様書 .....	316
第4節 和算・洋算と規矩術 .....	265	6 - 20 丸三建物地形工事仕様書 .....	318
*資料		6 - 21 司法省工事関係仕様書 .....	319
5 - 10 扇極等間計算法審査要領 .....	266	6 - 22 英吉利法律学校新築約定書 .....	321
5 - 11 扇極の計算及び図法新案 .....	266	第5節 防火床構造 .....	323
5 - 12 扇極等間の計算 .....	273	*資料	
第6章 煉瓦の生産とその建築 .....	279	6 - 23 司法省三階鉄梁及木梁共据付方仕 様注文 .....	325
第1節 銀座煉瓦街の建設 .....	281	6 - 24 三菱三号館建築鉄梁及鉄板掛渡仕 様 .....	326
*資料		6 - 25 海軍省建築屋根小屋鉄物及硝子屋 根買入并組立工事入費内訳等 .....	326
6 - 1 銀座煉瓦街の建設経緯 .....	281	第7章 鉄骨および鉄筋コンクリート 構造の導入と定着 .....	329
6 - 2 煉瓦街建設の告諭 .....	283	第1節 秀英舎工場と「鉄骨構造建築学」 .....	335
6 - 3 煉瓦街建設の発議 .....	284	*資料	
6 - 4 市区改正に対する外人の意見 .....	285	7 - 1 秀英舎鉄骨煉化の工場 .....	335
6 - 5 ウォートルスの煉化石建築方法 .....	287		

7 - 2	鉄骨構造建築学	337	8 - 7	震害及火害之研究	412
第2節	鉄筋コンクリート構造導入初期の事情	341	第3節	柔・剛構造論	412
*資料			*資料		
7 - 3	火山灰論	342	8 - 8	耐震構造問題に就て	413
7 - 4	コンクリート造家屋	343	8 - 9	耐震構造上の諸説	413
7 - 5	巴里ニ於ケル建築構造新法	344	8 - 10	佐野博士の耐震構造上の諸説(評論)を読む	418
7 - 6	鉄筋混凝土ノ価値	345	8 - 11	静岡県耐震建築相談所に於ける質疑事項	421
7 - 7	理想の建築と構造	351			
第3節	和田岬の「旧東京倉庫」	352	第9章	造家から建築へ	425
*資料			第1節	議院建築	427
7 - 8	鉄筋コンクリートの倉庫	353	*資料		
第4節	大震災前鉄筋コンクリート造の経歴	357	9 - 1	議院建築ニ関スル意見書	427
*資料			9 - 2	議院建築計画調査ノ沿革	429
7 - 9	大震災前鉄筋コンクリート造の経歴	358	9 - 3	議院建築準備委員会官制	432
第5節	鉄筋コンクリート構造技術の定着	361	9 - 4	議院建築準備委員会議案および報告書	434
*資料			9 - 5	議院建築調査会ノ設置	437
7 - 10	鉄筋コンクリート床版及梁計算図表	362	9 - 6	議院建築調査会の議案その他	437
7 - 11	鉄筋混凝土梁計算図表	367	9 - 7	議院建築に関する建築学会の動き	439
第8章	関東大震災と耐震構造理論	375	9 - 8	議院建築設計の懸賞競技	444
第1節	『家屋耐震構造論』と「架構建築耐震構造論」	379	第2節	我国将来の建築様式を如何にすべきや	450
*資料			*資料		
8 - 1	米国加州震災談	380	9 - 9	我国将来の建築様式を如何にすべきや	451
8 - 2	家屋耐震構造論	382	第3節	新建築思想の黎明	465
8 - 3	架構建築耐震構造論	390	*資料		
第2節	関東大震災による建築物の被害とその反省	395	9 - 10	鉄筋コンクリートに於ける建築様式の動機	466
*資料			9 - 11	形而下の構造に対する形而上の批判	468
8 - 4	震災及びそれに伴へる火災に依る建築物被害の統計	396	第4節	建築非芸術論	471
8 - 5	鉄筋混凝土造建築物被害調査報告	400	*資料		
8 - 6	木造被害調査報告	404	9 - 12	建築非芸術論	472
			9 - 13	野田学士の建築非芸術論	479

第10章 近代建築運動の展開……………	481	11-10 「建築士法」案に対する意見……………	544
第1節 「分離派建築会」から「青年建築家クラブ」まで……………	488	第3節 挫折?・屈伏?……………	547
*資料		*資料	
10-1 分離派建築会……………	488	11-11 「大東亜建設記念營造計画」競技設計……………	549
10-2 分離派建築会の通った道……………	491	11-12 大東亜建築文化建設を担当する日本建築家の総合的自覚……………	550
10-3 新興建築家聯盟解散の事情……………	495	11-13 大東亜共栄圏建設記念營造計画の実現を望む……………	551
10-4 青年建築家クラブをかえりみて……………	496	11-14 「大東亜建設記念營造計画」競技設計一等当選案設計主旨……………	553
10-5 新日本建築家集団歴史研究部会報告……………	501	11-15 「大東亜建設記念營造計画」競技設計審査評……………	553
第2節 建築家による建築史（唯物史観建築史）……………	504	第12章 復 興……………	557
*資料		第1節 新日本建築家集団（NAU）の成立と崩壊……………	559
10-6 必然の建築……………	505	*資料	
10-7 建築思潮を語る……………	510	12-1 日本建築文化聯盟……………	561
第3節 日本工作文化聯盟……………	515	12-2 新日本建築家集団（NAU）……………	563
*資料		12-3 ヒューマニズムの建築……………	566
10-8 日本工作文化聯盟……………	515	12-4 「ヒューマニズムの建築」をめぐる……………	569
10-9 日本工作文化聯盟日記……………	517	第2節 「建研連」と「五期会」……………	572
10-10 「日本工作文化聯盟」批判……………	519	*資料	
第11章 建築史・建築家および戦争への傾斜……………	523	12-5 建築をみんなで……………	574
第1節 「建築史研究会」の成立……………	524	12-6 「五期会」編年史……………	582
*資料		12-7 「五期会」不信任……………	587
11-1 「建築史研究会」準備会……………	527	12-8 「民主主義を守る建築会議」報告……………	588
11-2 「建築史研究会」の結成……………	527	第3節 建築の設計競技……………	590
11-3 建築史研究の態度に就いて……………	528	*資料	
11-4 法隆寺研究の動機……………	530	12-9 建築競技執行規準……………	592
11-5 建築史講座存立の理由……………	532	12-10 建築設計競技執行規準……………	595
11-6 登呂遺跡と建築史の反省……………	534	12-11 建築設計競技規準……………	597
第2節 建築家の職能確立への道……………	536	■年 表……………	601
*資料		■参考文献目録……………	611
11-7 建築師報酬金歩合表……………	539	■索引……………	618
11-8 日本建築士会会則・諸規程……………	540		
11-9 「建築士法」案その他……………	542		